

ロジスティクス環境フォーラム2012

Green ⇔ Low Cost

参加者募集のご案内

プログラム

- グリーンロジスティクス事例研究会
- グリーンロジスティクステーマ別共同研究会

開催案内

2012年6月～2013年2月(事例研究会、テーマ別共同研究会ともに、各々6会合開催)

参加対象

- 物流効率化を通じ省エネ・省資源・環境負荷低減やコスト低減に取り組んでいる方
もしくはこれから取り組もうとされている方
- ロジスティクスにおける環境問題やグリーン物流に関心のある方
- 活動を通じて同業他社や異業種のメンバーと人的ネットワークを作りたい方

ロジスティクス環境フォーラム2012とは

環境問題への取り組みは今や企業や社会の常識となりつつあります。

しかしながら、環境問題の代表的な課題である地球温暖化に関する新聞記事の件数の推移を見ると、国際的にも国内的にも最近では低下傾向が見られます¹。特に我が国では、COP17での温室効果ガス削減目標からの離脱などもあり、二酸化炭素に係る議論が冷めた感すらあります。

2009年度に我が国から排出された二酸化炭素は11億4,500万t-CO₂となり、1990年度の11億4,320万t-CO₂とほぼ同じ量となった一方で、ロジスティクスと関わりの深い貨物輸送部門では8,696万t-CO₂と、1990年比17%減という結果となりました²。貨物輸送部門の二酸化炭素排出量の削減は極めて順調に推移して来たかに見えます。

しかしながら、このうち、営業用貨物自動車からの二酸化炭素排出量は、1990年比で14%の増加となっていました³。これは自営転換などが進み営業用貨物自動車の輸送量が増えた結果ではありますが、貨物輸送部門の二酸化炭素排出量のほぼ9割を占める貨物自動車の低炭素化/省エネ化を図ることはますます重要な課題となっていると言えます。

化石エネルギーから発生するCO₂に関わる課題以外にも、国際的な経済環境の変化にも関連する“資源循環性”の問題は、製品の回収や包装材のリユース・リサイクルなどの点で、グリーンロジスティクスとして再度着目すべきテーマになると考えられます。

さらには、環境負荷を「見える化」する動きも、GHGプロトコルのスコープ3や東京都のトラック輸送事業者評価制度などで進められています。

JILSが独自に行っている「グリーンロジスティクスチェックリスト調査」、「省エネ法実態調査」の結果から、これまで相当程度グリーンロジスティクスの取組を進めてきた企業であっても

- ①物流部門が単独で実施できる施策の進捗が良好な一方で、自社の他部門や他社と連携して行う施策の進捗はいまひとつであること
- ②荷主と輸送事業者の間で省エネ法の報告制度に対する取組課題に認識のずれがあること

などが明らかになりました。

「ロジスティクス環境フォーラム2012」は、以上のような現状認識に基づき、“連携”をキーワードに、ロジスティクス分野の省エネや低炭素化、資源循環性の向上などの環境活動を推進する方策を、関係するもの相互が共に理解し、取組をさらに進化させていくことを狙いとして企画されたものです。まずは各企業や組織が実施している方策を知り、自社への適用を考えることに始まり、参加者相互の情報交換や連携によって、単独企業では不可能な方策についても展開していく機会になることを企図しております。さらには、行政や社会への働きかけも、大きな流れをつくるきっかけとなると考えています。

限りある化石エネルギーや資源を消費し大量の温室効果ガスや廃棄物を排出している現在のロジスティクスシステムを、よりグリーン化することは、地球に流れている永い時間の一瞬を過ごす我々が子孫のために出来ることのひとつです。

既に良く知られていることですが、グリーンロジスティクスはコスト削減のロジスティクスでもあります。コスト削減に加えて自社のロジスティクスのグリーン度を向上させたい皆様方、また、環境問題や資源・エネルギー問題のみならず、企業の社会的責任などにご関心のある皆様方の積極的な参加をお待ちしています。

概要

1. 目的

持続可能社会を実現するロジスティクスを構築するため、国内外の情報を得、さらにこれを活用する方法を探ることを目的として活動します。

2. 期間

2012年6月～2013年2月

3. 参加対象者

ロジスティクス分野における物流効率化を通じて、環境負荷低減と物流コスト低減を両立させたい方、環境問題に関心のある方、また、活動を通して同業他社や異業種のメンバーとの人的ネットワークを構築したい方の参加をお勧めします。

¹ Maxwell Boykoff (2012) Media coverage of climate change/global warming. Retrieved February 9, 2012 from http://sciencepolicy.colorado.edu/media_coverage/

² 温室効果ガスインベントリオフィス 日本の温室効果ガス排出量データ (2009年度) 確定値

³ 温室効果ガスインベントリオフィス 日本の温室効果ガス排出量データ (2009年度) 確定値

4. 活動方針

持続可能社会を実現するロジスティクスシステムの構築に向けて、発荷主・着荷主・物流事業者の連携のもと、7年間にわたった「ロジスティクス環境会議」及びそれを継承した過去2年間の「ロジスティクス環境フォーラム」の活動成果及びネットワークを活用しながら、「連携」をキーワードにロジスティクス分野の省エネや低炭素化、また、資源循環性の向上などに資する事例にヒントを得つつ、それらの方策を検討・提案することによって環境活動を推進します。

◎これからの施策は連携にあり

物流部門が単独で実施できる施策に対する自己評価は高い一方、自社の他部門や他社と連携して行う施策の評価は低いことが特徴的です。平均点が低いこれらの施策はこれから取り組むべき施策の代替案と言えます。

◆2010年度チェックリスト調査 輸送に係る施策の平均点の分布 N=118

	← 低 平均点 高 →	
2.2③整備		62:タイヤ空気圧(3.6) 63:エアフィルター(3.5)
2.2④エコドライブ		64:排気ガス目視(3.2) 65:エコドライブ活動(3.4) 66:エコドライブ指導(3.3)
2.2⑤ハード	71:バイオ燃料(1.7) 67:クリーンエネルギー自動車(2.8)	70:エコタイヤ(3.1) 68:排気ガス対応車(2.9)
2.2①輸配送計画	物流部門でも可能だが効果を出すには他部門、他社連携必要	56:大型化(3.1) 53:定期検討(3.0) 55:直送化と拠点経由使い分け(3.1)
2.2②積載率向上	60:調達物流(ミルクラン)(2.5)	57:帰り荷確保(3.1) 58:混載、共同輸送(3.0) 59:共同配送(2.9)
1.2 生産等	他社連携必要	24:輸送効率考慮製品開発(3.0) 26:積載率等考慮生産体制(3.0) 他部門連携
1.3 商取引(取引先)	30:ピーク平準化(2.4) 28:大口化(2.6) 27:取引基準設定(2.7)	29:頻度、LT見直し(2.9) 31:定刻化待機時間削減(3.1)
1.5 モーダル	34:鉄道(2.5) 35:船舶(2.7)	

【凡例】チェック項目番号:施策(施策の平均点)

出典:2010年度グリーンロジスティクスチェックリスト調査 JILS 2011年5月

活動計画

ロジスティクス環境フォーラム2012は

- ・「グリーンロジスティクス事例研究会」
- ・「グリーンロジスティクステーマ別共同研究会」を2本の柱として活動します。

「グリーンロジスティクス事例研究会」は、企業の実務家や研究者を毎回お招きして、グリーンロジスティクスの最新事例や行動向についてお話を伺います。

「グリーンロジスティクステーマ別共同研究会」は、参加者の関心が高いテーマを2つ選択して、1年間の活動を前期と後期の2つに分けて、共同で研究を行います。

さらに、上記の活動を補完するものとして、「省エネ法実態調査」(2012年7月頃)と「グリーンロジスティクスチェックリスト調査」(2013年2月頃)を行います。

*ロジスティクス環境フォーラム2012は、「グリーンロジスティクス事例研究会」と「グリーンロジスティクステーマ別共同研究会」のうち、どちらか片方への参加も可能です。

◎ロジスティクス環境フォーラム2011 参加メンバー一覧

我が国のグリーンロジスティクスを代表する企業の皆様に参加載っています。

味の素(株)、オリンパスロジテックス(株)、花王(株)、キャノン(株)、キューピー(株)、キリンビール(株)、光英システム(株)、佐川急便(株)、山九(株)、JX日鉱日石 ANCI(株)、(株)資生堂、住商グローバル・ロジスティクス(株)、新日本製鐵(株)、センコー(株)、第一貨物(株)、拓殖大学、ディーアイエス物流(株)、東芝ロジスティクス(株)、東京女子大学、東京都市大学、トヨタ自動車(株)、日清オイリオグループ(株)、(株)日通総合研究所、日本通運(株)、日本トランスシティ(株)、日本パレットレンタル(株)、(株)バンダイロジパル、(株)プロロジス、三井金属鉱業(株)、三菱倉庫(株)、三菱電機(株)、リコーロジスティクス(株) 以上32社

*荷主12社(38%)、物流子会社6社(19%)、物流事業者8社(25%)、大学・研究機関4社(13%)、その他2社(6%)

グリーンロジスティクス事例研究会

1. 趣 旨

グリーンロジスティクスに係る産業界の動静や行政の施策、新しいビジネスモデルやコンセプト、技術開発動向など、最新の話題や企業各社による取組・先進事例等の紹介を通じて、メンバー各社における物流効率化によるコスト削減やグリーンロジスティクスのヒントをご提供します。

2. 各回のテーマ

環境問題全般、行政動向、連携、着荷主のグリーン物流、物流技術

3. 参加対象

次のような方々に参加をお勧めします。

- グリーンロジスティクスや物流効率化によるコスト削減に取り組んでいる方、もしくはこれから取り組もうとされている方
- グリーンロジスティクスや物流効率化によるコスト削減を進める上の情報やヒントを得たい方
- 環境問題に関心があり、産業界の動静や個々の企業の事例に興味がある方

*グリーンロジスティクス事例研究会は、同じ会社であれば、ご登録いただいた方以外の代理出席が可能です。

4. 募集人数

50名(定員になり次第、締め切らせて戴きます)

5. プログラム

2012年度は、2012年6月から2013年2月までの間に6回開催する予定です。

時間は14:30から17:00までの2時間30分です(第1回及び第5回現地見学会を除く)。

*第3回会合以降は主に民間企業の事例をお話し戴く予定です。またテーマ名称は仮のものです。

*第5回会合現地見学会は訪問先選考中です。

【第1回会合】

	時 間	テーマ	内 容
2012年 6月21日(木)	14:30 ~ 14:40	環境問題全般	オリエンテーション
	14:40 ~ 15:50 (講演50分+質疑応答20分)		講演1 「地球環境とグリーンロジスティクス(仮題)」 増井 忠幸氏 東京都市大学 環境情報学部 教授
	15:50 ~ 16:00		休 憩
	16:00 ~ 17:10 (講演50分+質疑応答20分)		講演2 「地球温暖化問題の現状と今後の展望(仮題)」 山岸 尚之氏 公益財団法人世界自然保護基金ジャパン 自然保護室 気象変動プログラムリーダー

【第2回会合】

	時 間	テーマ	内 容
2012年 9月20日(木)	14:30 ~ 15:40 (講演50分+質疑応答20分)	行政動向	講演1 「東京都の環境対策—物流分野を中心に—(仮題)」 東京都環境局自動車対策部計画課(依頼中)
	15:40 ~ 15:50		休 憩
	15:50 ~ 17:00 (講演50分+質疑応答20分)		講演2 「東京都トラック協会の環境取組—「グリーンエコプロジェクト」を中心に—(仮題)」 遠藤 啓二氏 社団法人東京都トラック協会 環境部長

【第3回会合】

【テーマ】 連携 2012年10月18日(木) 14:30～17:00

【第4回会合】

【テーマ】 着荷主のグリーン物流 2012年11月15日(木) 14:30～17:00

【第5回会合】

【テーマ】 現地見学会 2013年1月17日(木) 午後

【第6回会合】

【テーマ】 物流技術 2013年2月21日(木) 14:30～17:00

◎2011年度グリーンロジスティクス事例研究会の開催実績

第1回会合(7月14日)

テーマ「環境問題全般」

- ・講演1 環境革命の時代・新たな国土像と物流を考える
東京都市大学 環境情報学部 教授 涌井 史郎 氏
- ・講演2 地球温暖化の現状と政策の動向
東京女子大学 現代教養学部 准教授 二村 真理子 氏

第2回会合(9月15日)

テーマ「共同物流」

- ・講演1 関連部署との連携による環境負荷削減の取組
三共貨物自動車(株) カスミ岩瀬流通センター センター長 斉藤 雅之 氏
- ・講演2 輸配送の共同化
パナソニックロジスティクス(株) 環境・社会貢献グループ 樋渡 大幸 氏

第3回会合(10月20日)

テーマ「グローバル・グリーンロジスティクス」

- ・講演1 トヨタの物流における環境への取組み
トヨタ自動車 物流管理部 プロフェッショナルパートナー 高松 孝行 氏
- ・講演2 日本通運の国際物流分野における環境取組
～上海・博多間高速船輸送と国内鉄道輸送のジョイントによるグローバル・グリーンロジスティクス～
日本通運株式会社 環境・社会貢献部 和田 修 氏
上海スーパーエクスプレス 代表取締役社長 寺内 昌弘 氏

第4回会合(11月17日)

テーマ「着荷主のグリーン物流」

- ・講演1 コープネットの環境の取組み
生活協同組合連合会コープネット事業連合 総合企画政策推進 環境政策
齊藤 勉 氏
- ・講演2 イオンの物流に関わるCO₂削減取組 ～更なる環境負荷低減に向けて～
イオングローバルSCM株式会社 営業統括部 効率化グループ
泉 裕介 氏

第5回会合：現地見学会(1月19日)

東京ミッドタウン(佐川急便) 大規模再開発ビル内の共同物流

第6回会合(2月16日)

テーマ「技術」

- ・講演1 化石燃料に頼らない貨物輸送は可能か？
公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 北條 英
- ・講演2 環境とCSR ～ヤマト運輸の環境戦略～
ヤマト運輸株式会社 CSR推進部 藤口 英治 氏

6. 会 場

都内会場(現地見学会を除く)

7. 幹 事

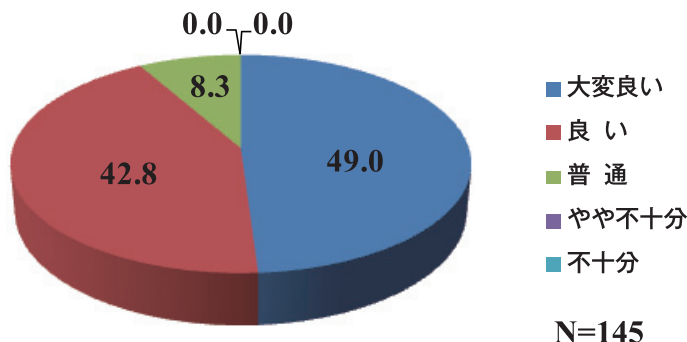
幹 事：東京女子大学 現代教養学部 准教授 二村 真理子 氏

副幹事：新日本製鐵(株) 営業総括部 部長 中村 哲郎 氏

副幹事：佐川急便(株) 本社 東京本部 総務部 環境推進担当部長 石野 順三 氏

◎2011年度グリーンロジスティクス事例研究会の参加者からの評価(6会合計)

2011年度に開催したグリーンロジスティクス事例研究会では毎回参加者の皆様にアンケート調査を実施しました。全6回を通じた満足度は大変高く、「大変良い」(49%)と「良い」(43%)を合わせると92%に達しました。



グリーンロジスティクステーマ別共同研究会

1. 趣 旨

グリーンロジスティクステーマ別共同研究会(旧称・グリーンロジスティクス共同研究)は、2010年度から2011年度の2年間、「共同物流」をテーマに掲げて、事例研究とそれに基づく要望書の作成を行いました。

事例研究の具体的なテーマは「鉄道・船舶を使った共同物流」と「パレットプールシステムを使った共同物流」のふたつです。事例研究では、参加各社の発表やゲストスピーカーをお招きしての発表等による現状調査を通じて、それぞれの事例を自社に展開する際の課題を整理し、これに基づいて方策をまとめ、さらに民間企業だけでは解決が難しい課題については関係諸機関に対する要望書としてとりまとめました。

有益な成果が出せたと評価できる一方で、「敷居が高そう」、「研究期間が長い」、また、「多様なニーズに応えられていない」などの反省も生まれました。

そこで、2012年度は研究方法を一新し、**1年間を前期と後期に分け、それぞれひとつずつテーマを取り上げて共同で研究を行う**こととしました。ここで言う“研究”は決して難しいものではありません。例えて言えば、次のようなイメージです。

- ①自社や自らが困っていることや疑問点から出発し、環境負荷低減活動のレベルアップを図るべく“ワイガヤ”をする
- ②皆で困っていることや解決の知恵を出し合う、環境業務を深める、生の情報を得る

さらに、成果物を出すことは重要ではありますが、2011年度の活動の中で31ft鉄道コンテナの共同利用を検討するパートナーとの出会いがあったことに象徴されるような、研究過程を通じた「気づき」や人的ネットワークの形成、また、情報交換・発信をより重視して、多くの方々に参加して戴ける研究会を目指します。

2. テーマ

共同研究に参加される方々を対象に、**お申し込み時に次のテーマ中からご希望を伺い事務局が整理し、第1回研究会で検討の上、ふたつのテーマを選びます**

【テーマの選択肢】

テーマA 鉄道・海運を利用したモーダルシフト

例えば、

- ①鉄道・海上コンテナの積載効率アップと作業の効率化
- ②地方港の利用によるモーダルシフトの推進 など

テーマB 資源循環

例えば、

- ①静脈物流の効率化と環境対策
- ②3R など

テーマC グローバル

例えば、

- ①国際複合一貫輸送の課題と対応
- ②グローバル物流におけるCO₂削減活動 など

テーマD 環境でもうける

例えば、

- ①グリーン製品/グリーンサービス
- ②環境ブランド など

テーマE CO₂見える化の最新動向

例えば、

- ①スコープ3への対応
- ②排出量クレジット(二国間、国内) など

3. 参加対象

次のような方々に参加をお勧めします。

- グリーンロジスティクスや物流効率化によるコスト削減に取り組んでいる方、もしくはこれから取り組もうとされている方
- グリーンロジスティクスや物流効率化によるコスト削減を進める上の情報やヒントを得たい方
- 講師の話をお聴きだけでなく、参加者同士の議論や意見交換を通して、より深くグリーンロジスティクスや物流効率化の知識・技術を学びたい方
- 活動を通して他社とのパートナーシップを築きたい方

* グリーンロジスティクステーマ別共同研究会は、同じ会社であれば、ご登録いただいた方以外の代理出席が可能です。

4. 募集人数

30名(定員になり次第、締め切らせて戴きます)

5. 開催日程及び時間【暫定】

6月、7月、9月、11月、12月、2013年1月(全6回)

1回の会合時間は2ないし3時間とし、各回とも14時以降の開催を予定しています。

会合の日程は都度調整の上、決定します。

6. 会場

都内会場

7. 主査

増井 忠幸 氏 東京都市大学 環境情報学部 教授

また、テーマに応じて適切な副主査を委嘱します。

8. 研究の成果物

選択したテーマに応じて、報告書、事例集、要望書などから適宜選択します。

◎ 2011年度グリーンロジスティクス共同研究の成果物

次のふたつの要望書を作成しました。

- 「鉄道を使った共同物流」促進のための要望

要望項目

- ①31ft鉄道コンテナの日本貨物鉄道(株)所有化
- ②日本貨物鉄道(株)及び通運事業者の協調による31ft鉄道コンテナの運用効率の向上

- 「パレットプールシステムを使った共同物流」促進のための要望

要望項目

- ①輸入パレットのリターナブル化
- ②第三者機関が公平な見地から運営のルールやパレットの規格等を明示した上でパレットの管理体制を構築すること

参加申込書

申込FAX 03-5484-4031

■参加料（※下記金額には消費税が含まれております）

名称	JILS会員	JILS会員外
ロジスティクス環境フォーラム2012 (事例研究会+テーマ別共同研究会、両方へ参加)	105,000円 / 1名	147,000円 / 1名
事例研究会 (のみへ参加)	63,000円 / 1名	91,350円 / 1名
テーマ別共同研究会 (のみへ参加)	63,000円 / 1名	91,350円 / 1名

申込方法

- 下記の参加申込書に必要な事項を明記のうえ、ファックスにて事務局までお申し込みください。
 - 「参加証」と「請求書」は参加者の方へ申込書受領後 1 週間ほどでお送りいたします。お手元に届かない場合には、ご連絡をお願いいたします。
- 【開催日直前のお申し込みについて】
- 開催間近のお申し込みについては、事務局までお問い合わせください。

参加料支払い方法

- 請求書は原則として合計金額を参加者の方にお送りいたします。それ以外をご希望の方は、協会への連絡事項欄にてご指示ください。
- 請求書が届き次第、指定の銀行口座にお振り込みください。
- お支払いは、原則として開催前日までをお願いいたします（開催後になる場合は参加申込書の支払予定日欄に明記してください）。
- 振込手数料は、お客様にてご負担願います。
- 開催日の 1 週間前までに参加証が届かない場合は、事務局までご連絡をお願いいたします。

【キャンセル規定】

開催7日前～前々日（開催初日を含まず起算）… 参加料（消費税を除く）の30%
 開催前日および当日 ……………… 参加料（原則として消費税を除く）の全額

ご注意

- 原則として、参加料の払い戻しはいたしません。
- 参加料には、各会合（事例研究会、テーマ別共同研究会）の運営費用等が含まれます。
- カメラ・録音機の持ち込みはご遠慮ください。
- 万一キャンセルの場合は必ずファックスでご連絡ください。

参加申込先およびプログラム内容の問い合わせ

(公益)日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境推進センター
 東京都港区芝 2-28-8 芝 2 丁目ビル 3 階
 TEL. 03-5484-4021 FAX. 03-5484-4031

個人情報のお取扱について

(公益)日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<http://www.logistics.or.jp/privacy.pdf>) をご覧ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本フォーラムに関する確認・連絡・参加者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

ロジスティクス環境フォーラム2012				参加料支払窓口	
フリガナ 会社名・事業所名		<input type="checkbox"/> 協会会員 <input type="checkbox"/> 会員外		部署名	TEL. () - FAX. () -
参加者	フリガナ氏名	所属・役職名		担当者名	支払予定日 月 日払
	所在地 〒 -	都道 府県			TEL. () - FAX. () -
	E-mail				
	希望テーマ	(第1希望に○、第2希望に○印を付けて下さい) <input type="checkbox"/> A.鉄道・海運を利用したモーダルシフト <input type="checkbox"/> B.資源循環 <input type="checkbox"/> C.グローバル <input type="checkbox"/> D.環境でもうける <input type="checkbox"/> E.CO ₂ 見える化の最新動向 <input type="checkbox"/> F.その他(具体的に:)			
参加料合計 名 円		協会への連絡事項			

※事例研究会およびテーマ別共同研究会の2つの会合へ参加される場合は、上記の参加者欄へご記入ください。

事例研究会のみへ参加 DK1274			
参加者	フリガナ氏名	所属・役職名	
	所在地 〒 -	都道 府県	
	E-mail		
	希望テーマ	(第1希望に○、第2希望に○印を付けて下さい) <input type="checkbox"/> A.鉄道・海運を利用したモーダルシフト <input type="checkbox"/> B.資源循環 <input type="checkbox"/> C.グローバル <input type="checkbox"/> D.環境でもうける <input type="checkbox"/> E.CO ₂ 見える化の最新動向 <input type="checkbox"/> F.その他(具体的に:)	
参加料合計 名 円		協会への連絡事項	

テーマ別共同研究会のみへ参加 DK1275			
参加者	フリガナ氏名	所属・役職名	
	所在地 〒 -	都道 府県	
	E-mail		
	希望テーマ	(第1希望に○、第2希望に○印を付けて下さい) <input type="checkbox"/> A.鉄道・海運を利用したモーダルシフト <input type="checkbox"/> B.資源循環 <input type="checkbox"/> C.グローバル <input type="checkbox"/> D.環境でもうける <input type="checkbox"/> E.CO ₂ 見える化の最新動向 <input type="checkbox"/> F.その他(具体的に:)	
参加料合計 名 円		協会への連絡事項	

※お願い:請求書は原則として合計金額を参加者の方にお送りいたします。それ以外をご希望の方は、協会への連絡事項欄にてご指示ください。

受付日	請求日	請求番号
-----	-----	------

DK1276